



日研究生E-だより 第12号

筑波大学 日本語・日本文化学類

2017年12月8日

修了生のみなさん、お元気ですか。2006年に『日研究生E-だより第1号』を発行して以来、今年第12号をお届けすることになりました。この12年の間に、本学類で受け入れた日研究生は138名にのぼります。そして今年の10月に新たに日研究生12名を迎えました。

《2016年度日本語・日本文化研修留学生の修了式》



前列左から:

- ・ニュー(タイ)
- ・ニョン(ベトナム)
- ・アリョーナ(ウクライナ)
- ・ナスティヤ(スロベニア)
- ・カミーラ(ウズベキスタ)
- ・エラーゼム(スロベニア)

2017年度日研究生の出身国は次の通りです。

出身国名	人数
ロシア	1名
モンゴル	3名
ブラジル	3名
ベトナム	2名
カンボジア	1名
中国	1名
大韓民国	1名
計	12名



2017年9月27日 2017年度日研究生オリエンテーション

■ 2016年度担任の小野正樹先生と副担任の中込睦子先生からメッセージをいただきました！

小野正樹先生



皆さん、お元気ですか。2016年度担当をしていた小野正樹です。

9月6日の修了式が、昨日のことにように思えます。ウクライナ、ウズベキスタン、スロベニア、タイ、ベトナムから集まった皆さんとの出会いと対話は、僕自身にとっても大変貴重な経験でした。授業での皆さんの発言、レポートに向かっている姿、多くの学生の前での研究発表、チューターとの語らい、国立民族博物館・房総のむら・成田山新勝寺・佐原の研修旅行など、皆さんと一緒に過ごした時間をしっかり覚えています。今は一人ずつ頑張っていることでしょう。Alone together、またどこかで会える気がします。

今年も新しい日研究生が日本語・日本文化学類に来てくれました。HPを時々覗きにきてくれると、きっと筑波大学でのことを思い出すきっかけにもなるでしょう。

筑波大学での留学生活が、今の皆さんに役立っていてくれれば、本当に嬉しいです！

中込睦子先生

こんにちは。昨年度副担任をしていた中込睦子です。

私は副担任という立場でしたので、皆さんから見ると、私の印象は薄いものだったかもしれません。でも、私にとって、皆さんのまじめな勉強ぶりと好奇心旺盛なたくさんの質問は、本当に印象深いものでした。11月の研修旅行では、チューターと一緒に博物館の展示をみたり町のおそば屋さんでおそばを食べたり、房総のむらでは茶道も体験しましたね。皆さんにとって一番大変だった修了論文でも、それぞれ自分のテーマで研究を進め、中には遠くまで現地調査に行った方もいましたね。そのような皆さんの奮闘ぶりは、私にとって誇らしくそして良い思い出です。皆さんと知り合えて本当に良かったと感謝しています。



皆さんの帰国と入れ替わりに、今年も新しい日研究生 12名がやってきました。新しい日研究生とも、楽しく有意義な時間を過ごしたいと思っています。皆さんも、日日学類のホームページを覗いてみてください。そして、後輩の日研究生たちの頑張る姿を見て、彼ら彼女らを応援してあげてください。

もちろん、皆さん自身も、1年間の留学経験を生かして、それぞれの母国で活躍していただきたいと心より思っています。皆さんの前途に幸いがありますように！

■ 2016年度日研究生に聞きました！

今年9月に修了した日研究生6名に次の質問をしたところ、5名の方からお返事をいただきましたのでご紹介します。

1. あなたが日本/筑波大学で一年間日研究生として過ごした感想や、心に残る経験・思い出などについて教えてください。
2. あなたの帰国後の現在の様子を知らせてください。(近況報告、帰国後に日本での生活を振り返って思うこと、など)

■ エニケエワ・カミーラ さん（ウズベキスタン出身、サマルカンド国立外国語大学在籍） ENIKEEVA, Kamilla

1. 去年、初めて日研生として筑波大キャンパスに来た時、これからの1年間はどうなるのか全然想像もできませんでした。初めて自国や家族などから離れた私は、留学前に、1年間はとても長いと思っていましたが、帰国前に、1年間は非常に短い時間だったと感じました。論文指導の先生、先生方、論文チューター、チューターの皆さんのおかげで、困ったこともなくて、この短期留学は忘れられない思い出になりました。いつでも何でも優しく教えてくれて、私が何かがうまくできなくて諦めたい時には、「一緒に頑張りましょう！もう一回やって見ませんか。」といつも言ってくれました。この1年間、誠にありがとうございました。

日研生プログラムに参加する目的は日本語のレベルを高めることと、研究しながら日本文化を実感することでした。思ったよりたくさんのことを学習、体験できました。初めてできたことがたくさんありました。例を挙げますと、初めての一人暮らし、初めて自転車に乗れるようになったこと、初めて海を見たこと、水泳の先生のおかげで、初めて泳げるようになったことです。また、サークルに入ったおかげで、日本人の友達ができて、様々な国のの人々と交流によって、お互いの文化や考え方を理解し合うことができました。そして、初めてスキーの体験ができた新潟県湯沢町、御来光を見た富士山をはじめ、大阪、奈良、京都、神戸、広島、宮島、横浜、江ノ島、箱根、日光へ、たくさん旅行をしました。第58回外国人による日本語弁論大会にも参加しました。

2017年度の新しい日研生のみなさん、日研生として筑波大学での1年間の留学、おめでとうございます。みなさんのことをぜひ聞きたいので、FacebookなどのSNSで友達になって、色々話し合しましょう！

2. 帰国後、ウズベキスタンのサマルカンド国立外国語大学に復学し、4年生として勉強を続けています。来年6月に4年次を終わらせる予定ですので、今卒業論文を書きながら、大学院進学の準備をしています。また筑波大学に行けるチャンスがあれば幸いです。

日本で過ごせた日々を思い出すと懐かしいです。担任兼論文指導の小野先生、先生方、論文チューターの岩崎透さん、チューターの皆さん、そして2016年の日研生の皆さん、お元気に過ごしているのでしょうか。お忙しいと思いますが、みなさんの近況などお伝えできると幸いです。



論文チューターの岩崎透さんと。

■ シュタンツァル・エラーゼム さん（スロベニア出身、リュブリャナ大学在籍） STANCAR, Erazem



房総のむらで甲冑を試着しました。

1. 留学前から、日本研究を勉強している大学生の私は日本に留学したい気持ちが強かったです。リュブリャナ大学では、先生が教えてくださった日本文化と日本語に関する勉強はいつも面白いと思っていたが、その異文化に直接触れる機会があまりありませんでした。大学3年生の時、2月の下旬に筑波大学の先生と学生さんがリュブリャナ大学に研修にいらっしゃいました。その時、筑波大学日本語・日本文化学類の鈴木伸隆先生に初めてお会いし色々話をしまして、筑波大学に留学することを決めました。その後、ラッキーなことには、私が日本語・日本文化研究留学生プログラムに選ばれ、文部科学省の奨学金を受けて、筑波大学へ1年間留学することができました。

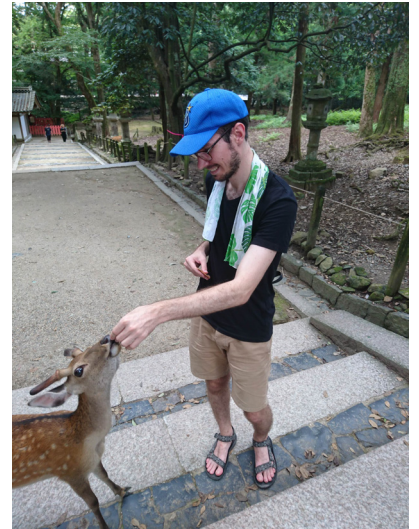
日本語能力のレベルアップ、日本人友達づくり、日本の伝統文化体験という希望を持った私は2016年9月に来日しました。最初の一か月は、事務手続きなど忙しかったです。日研生担当教員の小野正樹先生、チューターの高木麟太郎さんと中嶋さくらさんに大変お世話になりました。

月日が重なって、日本の生活に徐々に慣れてきました。大学で様々な科目をとったり、部活に入ったり、毎日学内の食堂で食べたり、図書館で勉強したり、日本人学生の普段の生活が体験できたと思います。私が出会った先生と学生がみんな親切で、外国人が日本の文化と言語に対して興味を持つということを聞いて、感謝の言葉をくださったことが多かったです。筑波大学のアカデミックな雰囲気は、大変勉強しやすい環境だと思います。

日本にいた一年間で様々な体験をしました。東北、長野県、近畿と鎌倉へも行って、日本の地域の多様性を勉強しました。スロベニア人の先輩が紹介してくれたお神輿の職人である宮田宣也さんと一緒に山梨県のおみゆきさんという祭りでお神輿を担いでみたり、秦野市の緑茶の工場でお茶を作ってみたり、お正月に横浜の春日神社へ初詣に行ったり、スロベニアに短期留学に来て友達になった福井勇希さんと一緒に横浜市のカップヌードルミュージアムでインスタントラーメンを作ってみたり、横浜ベイスターズというプロ野球チームの試合へ行ったりして、日本で色々な体験ができました。このようなイベント体験は、日本人の友達がいなかったら、参加できなかったと思います。日本人の友達にとっても感謝しています。

筑波大学の先生方と学生の皆さん、日研生の皆さん、東洋大学と福井勇希さんご家族の皆さん、宮田宣也さんご家族の皆さん、そして他にたくさんの人たち、この一年間本当に大変お世話になって、心から感謝を申し上げます。この留学経験は一生に絶対に忘れられないものになりました。

2. 留学から帰国してから、リュブリャナ大学を卒業し、現在日本研究と英語研究のダブルメジャーを専攻に大学院で勉強しています。修士論文を書いて卒業した後、また来日する予定です。できれば日本の大学院に入学し、修了してから日本で就職したいと思っています。



奈良で鹿と遊んで、東大寺の大仏を見ました。

■ ヴ・ティ・カム・ニュン さん（ベトナム出身、ハノイ大学在籍） VU, Thi Cam Nhung

1. 筑波大学に留学することができて、本当に良かったと思っています。1年間を振り返って、楽しくて良い思い出ばかりでした。この一年間は先生方をはじめ、チューターの方、日研生の皆さんに色々お世話になりました。

筑波大学で新しい知識や新しい友達との出会いができて、勉強の面はもちろん、生活の面でも、たくさんの方々に支えられて、たくさんのことを学ぶことができました。

修了論文を書く時に、テーマを決めることや資料収集、内容発展など困ったことや大変なこともありましたが、指導教師の金先生と論文チューターの川島さんが色々な指導や助言をくださったおかげで、無事に完成することができました。

日本人や留学生の皆さんと友達になって一緒に勉強したり、遊びに行ったりして、毎日楽しく過ごしました。日研生の仲間の多様な文化を体験することもできました。筑波大学で様々な経験を積む中で、日本語や日本文化についての知識を得るだけでなく、人間としても大きく成長できたように思います。

この一年間で、友達と色々なところへ旅行に行きました。日本のことをテレビや新聞でしか知らなかった私は実際に日本の文化を体験したり、紅葉や桜など自然の美しさを実感したりすることができました。

日本で留学している間に、喜びや楽しいことはもちろん、大変なこともありましたが、そうした全ての体験が私を成長させてくれました。1年間という短い時間ながらも、私の中でいつまでも残っている素晴らしい一年間でした。



日研生代表として謝辞を述べました。

2. 今、日研生の私たちが帰国してから、それぞれの進路に進んでいて将来のために頑張っているでしょう。私は帰国後、4年生としてハノイ大学で勉強を続けています。来年の6月に卒業する予定で、日本で書いた修了論文に基づいて大学卒業論文を書くつもりです。

また、今から就職活動を調べながら、日本語と英語の勉強に頑張っています。日本で得た知識を活かして、自分の夢をはじめ国の発展や日本との友好関係に貢献できるよう頑張っています。将来、機会があったら、筑波大学はもちろん、ぜひ日本に戻りたいです。日本または世界のどこかで再会できることを楽しみにしています。

■ **コルダエヴァ・アリョーナ さん（ウクライナ出身、キエフ国立大学在籍） KOLDAIEVA, Alona**

1. 一言で言えば、楽しかったです。

はじめて筑波大学に来た時は少し不安でした。しかし、毎日やさしい人たちに会ったり、新しいものを勉強したりして、その不安な気持ちを全て忘れてしまいました。逆に、帰国してから、どうなるかという不安を感じました(笑)。

日本、そしてその中の一部である筑波大学は季節が非常に変化しています。季節の移り変わりを楽しむことができたのは、良かったと思います。

秋は学園祭があります。つくばに来たばかりだった時期なので、どこに行くか、何をすればいいかわからず、迷っていました。しかし、筑波大学の場合、たくさん素晴らしいイベントが近くにありま。学園祭はその一つです。作ることも、見ることも、両方が楽しいです。いい日本文化の体験になりました。学園祭の最後の日に、様々な形をした花火は絶対のオススメです。うさぎの顔をした花火が出ました。

冬はやはりお正月です。その前にたくさんの日本人の友達を作っておけばいいですよ(笑)。なぜならば、日本人の友達がいたら、たくさん素晴らしい日本のお正月の祝い方を教えてもらえるからです。私は筑波大学の日本人の友達のおかげで、一生忘れられない餅作りが体験できました！

春は桜の花、そして雛祭りがあります。筑波大学で咲いた桜は素晴らしかったです。雛祭りの人形はつくばとその周辺でたくさん見かけました。素敵でまるで魔法のお姫様のようにです。筑波山の梅祭りも心に残ったイベントの一つでした。梅の花が咲いている梅林に囲まれ、日本料理を食べるのは最高でした。

夏は旅行とお祭りがたくさんありました。茨城県はもちろん、近くにある鎌倉への日帰り旅行も面白かったです。数日間だけでしたが、涼しい東北で、たくさんの日本文化が体験できました。また、素敵な盆踊りのように、夏にはたくさん伝統的



小野先生へのサプライズを日研生同士で計画中。

なお祭りの様子を見ることができて、大切な経験になりました。夏に特に印象深かったのは、私が『つくばスタイル』という雑誌に出ることです。それは外国人がつくバスに乗って旅をする体験についての記事でした。私はバスに乗って、つくばの田舎のライフスタイルを調べました。はじめて雑誌に出たので、緊張感はありましたが、留学生がこのような良い経験をさせていただき、本当に素晴らしかったと思います！

もちろん、それ以外にも数え切れないほど面白い体験ができました。筑波大学に来ることができて本当によかったです。



2. 私は今大学院に進学して、勉強を続けています。大学院で日本語からウクライナ語への翻訳のときに起きる問題点について研究を行いたいです。大学院卒業後の予定はまだはっきりわかりませんが、日本語に関係がある仕事をしたいのは確かです。大学に残って、日本語、あるいは日本とウクライナの文化比較や異文化問題に関する研究を行うということについても考えています。

私はウクライナが大好きで、ウクライナに帰ってうれしかったです。しかし、日本も大好きで懐かしく思います。機会があれば、まだ日本へ行きたいです！みなさん、また日本で会いましょう！



■ **パホル・ナスティヤ さん（スロベニア出身、リュブリャーナ大学在籍） PAHOR, Nastja**



修了式の挨拶の時。今、大学院生です。

1. 去年の9月に来日して、その時までに住んでいたところと全く異なる国に住むことが少し怖かったです。言語も文化も違い、不安なところもたくさんありました。しかし、困っていたときにチューターのさくら（中嶋さくらさん）や日研生の友達、そして日本語・日本文化学類の先生方がいつも助けてくれて、毎日とても楽しく過ごしました。

しかしながら最初は怖くても、新しい友達ができて、日本の美しいところに旅行して、忘れられない景色を見て、まだ知らなかった日本文化を知って、今となっては、この留学に対してはいい思い出ばかりです。日本を初めて旅行する前、日本の象徴の一つである富士山の写真を見て、いつか見てみたい

なあ、とずっと思っていました。そして留学中の夏休みの8月によやく行くことができました。静かで素敵な自然に囲まれた河口湖の周りを歩きました。その夏に河口湖から見た富士山はあまりにも美しかったです。今度は見るだけでなく、ぜひ登ってみたいと思います。

日本留学中に、異文化に触れあうことで、日本文化だけではなく、自国のスロベニアの文化もより深く理解できたと思うし、世界に対する新しい視点も得たと感じています。そして何よりも、日本人と接したり、日本について勉強したり、修了論文を書いたりしたことによって、日本語への興味やモチベーションが高まってきて、さらに勉強に励もうと改めて感じたことです。この一年間で得た経験は私にとって一生の宝物です。

2. 現在、リュブリャーナ大学に通っています。帰国後は進学して、今は日本研究の大学院一年生です！日本留学前のクラスメートの懐かしい顔がたくさんそろっていますが、つくばで出会った人に会いたいという気持ちも強いです。一年間の留学で得た経験をぜひ活かして、また日本に行けるよう、そしてみんなにまた会えるように、これからも頑張っていきたいと思っています。



■ 思い出のワンショット

2016年9月28日 2016年度日研究生オリエンテーション



2016年11月25日、26日 日研究生研修旅行



2016年11月25日、26日 日研生研修旅行



2017年7月12日 日研生修了論文最終発表会



2017年9月6日 2016年度日研生修了式・祝賀パーティー





2017年9月6日

日本語・日本文化学類が日研生の受入組織となってから30年を迎えました。

そして、日研生の1年の学修成果をまとめた修了論文集『異文化との出会い』は今年で第27号となりました。

これからもどんどん世界中に日研生の輪を広げていきましょう。

「日研生 E-だより」も第12号になりました。皆さんからのお便りをお待ちしております。

筑波大学 日本語・日本文化学類

HP <http://www.japanese.tsukuba.ac.jp/>

Twitter @Nichinichi

Facebook <http://www.facebook.com/tsukuba.nichinichi>



日本語・日本文化学類長室

nichi2_office@un.tsukuba.ac.jp

※メールアドレスが変更になった際にはお知らせください。